

今日も私にとってはいささか不本意にも、普段通り、訪れる友人が帰るのを家から見送り、私、中島栄子は二階の自分の部屋に戻った。

友人が来るまでに手早くシャワーと課題を済ませる習慣を身につけているし、後は部屋着に着替えて眠るだけだ。

浮かない顔の、らしくもないのろした動きで着替えて、髪をほどこ前に鏡を眺める。自慢の金髪と、好意を素直に表現する力を欠いた、どこか悄然とした自分。友人に対し、友人ではなくそれ以上の関係になりたい。言葉にすれば単純だ。直接的にアプローチすればいいのだが、そのための勇気が出ない。

行動のための前提条件があれば。毎晩自問自答しているが答えの出ない事。先程まで部屋で談笑していた友人……『あの人は私の事をどう思っているか』だ。

毎晩考えているのに、漠然とした手がかり、主観的な分析しかない。希望的な分析と、その真逆の分析が対立する。分析、評価、立案、そして行動。いつものようにやればいい。できるはずがないから、毎日いたずらに悩むことになる。

毎日の日課、今日もうまくできなかったことへの反省。小さく呻いて、後ろのベッドに倒れこむ。あの人は髪を優しく撫でてくれる。指を触ってくれる。私の硬くて傷ついたごつごつした手も気にしない。だが、それは異性ではなく、妹や後輩に対してのものではないだろうか。勇気が足りないからいけないのだろうか。もつと、本業の自分のように大胆かつ勇敢にならないといけないのではないだろうか。毎日同じ結論だ。無理に決まっている。小さく溜息を吐く。

「やっぱり、もつとこう……身体にメリハリがないと駄目なんですかね……？」

友人やクラスメイト、知人と自分の決定的な戦力差かも知れない。しかし。

「私は私ですし、持っている火器で勝負するしか無いというか……」

自分に言い聞かせるように、しみじみと、しかし誰にも聞こえないように小声で呟く。

\*\*\*

……呻き、悩みながらもごろごろしていたら、いつも眠りに就く時間より少し遅くなってしまう。

「そろそろ寝ましようか……」

と呟き、髪をほどくことを除いて、やり残した事はないか、部屋を見回して考える。軍事関

係の本と料理関係の本、小説がぎっしり詰まり、床に少し溢れた本棚。課題や勉強に使えるよう、整頓された机と、その上の本棚。無骨な鍵がかかった頑丈だけを主張する、大は軽迫撃砲から、小は拳銃まで、銃火器と弾薬が詰まったロッカー。壁にはポスターはなく、シンプルなカレンダーには自分の予定を自分と家族に知らせるための書き込み。ハンガーに吊るされた自分の制服、私服、誰かの服。床は先ほど脱いで畳んだ衣服と、本棚から溢れだしかけた本の小さな山以外は綺麗に整理されている。歓談に使うちゃぶ台は既に畳んで片づけてある。何か増やしたわけでもなく、模様替えをしたわけでもない部屋の風景に、小さな違和感がある。もう一度部屋を見回す。いつもの私服の服の横、友人の上着のハンガーの定位置に、見覚えのある服。あの人の服だ。思わず飛び起きる。はやる気持ちを抑え、誰かに見つかるのをおそれるかのように、歩哨に背後から忍び寄る時もかくや、と静かに慎重に近寄る。

「一体どうして……」

無言のまま、私は上着を手にとった。あの人の上着。あの人が身につけていたもの。口元に寄せて、匂いを嗅いで見る。それほど強烈ではないが、あの人の横にいとほんの少し香る、安心出来る匂い。二、三度深く息を吸うと、安堵するような、高揚するような。いや、何をやっているのか……と、我に返ると同時に顔が熱くなる。

「変な人みたいじゃないですか、こんなの……」

小声で呟きながら、しかし、上着を手放さずベッドにうつ伏せに倒れ込む。

「なんだか、安心します……」

上着に顔を埋め、そのまま深呼吸を繰り返す。あの人の匂い。こういう風に包まれたら、と深く思う。

ズボンと下着を一度におろして、シャツ越しに左手で胸の突起をなでさする。もどかしく、じわりとした快感。それだけではやはり物足りず、右手で控えめに生えそろうた陰毛を軽く撫でて、秘所を遠慮気味にこすり始める。少しずつ、動作が大きくなっていき、小さな喘ぎ声が漏れる。

「ん………さん……好きです……好き……」

布越しにも自己主張を強める控えめな胸の頂点の突起を少し強く摘みながら、秘所の突起を控えめに擦り、指先だけをおずおずと、表面だけをなぞる程度に浅く入れて上下に擦る。うっすらと溢れる液の水音と、小さな喘ぎ声だけが密やかに流れる中、快楽を貪る。

においをかぐだけのつもりだった彼の上着を噛んでしまった。声が出せないのも、ちゅく、ちゅぷ……という、自分から出ているのが信じられないやらしい水音と、荒い息遣いが聞こえる。自分らしくない、これは本当の自分ではない、と思いきもうとする。秘所をなぞる手に少し力を加える。指先に溢れた液が、熱を少しずつ失いながら太腿を伝って垂れたる。ベッド